



昭和廿七年九月一日

# 健歩こゝに五年

## 目 次

一、我が國に於けるボーイスカウト運動	三
1 戰前の少年團運動	三
2 戰後のボーイスカウト運動	八
二、縣内のボーイスカウト運動	八
1 戰前の少年團運動	八
2 戰後のボーイスカウト運動	九
三、ボーイスカウトの訓練と其の実績	一〇
1 ボーイスカウト訓練の目的	一一
2 県内におけるボーイスカウトの実績	一二
四、奉仕作業	一九
1 奉仕作業	一九
2 本年度夏期野營訓練	一九
3 ボーイスカウト各隊の輝く業績	一九
五、ボーイスカウト埼玉縣連盟の結成	一四
六、沿革	一八

## 一、我が國に於けるボーイスカウト運動

### 1 戰前の少年團運動

明治以後における我国の少年教育は、学校教育万能時代で、社会教育を実施する機關極めて少く、組織及教育も全く区々で、其の発達も稚々たるものであつた。

大正年間に入り、少年教育運動は各地に勃興し、其の効果も大に期待されたが、たゞ其の教育内容が独自的伝統を有するものが多々、中にも鹿児島市の少年健兒の舎、神戸市の隣保少年団、沼津市の岳陽少年団等は、この著しいものであつた。

大正十年に今上陛下が皇太子殿下であらせられし時、親しく歐州各地を御巡行せられ、英國御滞在中、同年五月二十一日北都エデンバラ市におけるボーイスカウト大会に臨御あらせられ、創始ベーデンボーエル卿を御謁見の上同卿に御詞を賜つたが、其の際扈從の後藤新平伯に、「日本にもこうした運動が望ましい」と仰せられしお言葉に応えて、同伯帰朝後この運動を正式に開始、當時東京市長として贈られし退職慰労金拾万円を、其のまゝボーイスカウト日本聯盟創立基金にあてゝスタートしたのである。

翌十一年四月十三日、諭問市において、全国少年団代表者会議を開き、少年団日本連盟を組織し、初代総長に後藤新平伯を推戴し、事務所を文部省構内におき、着々団勢の發展に努力したのである。

次いで海洋少年団を設け、昭和十六年三月解散に至る迄の団勢は、加盟団一・二三一、団員、一〇二・五一〇人に達し、その間左記国際會議に代表者を派遣し、國際少年としての教育方法を、一層有意義たらしめたものである。

ボーカウト国際会議

四

回次	時	場	所	出席者
第一回	大正九年夏	英國倫敦	小柴博、下田豊松	
第二回	大正十一年夏	佛國巴黎	東京聯合少年団副團長内田嘉吉	
第三回	大正十三年夏	丁抹同	三島通陽、佐野常羽、尾崎元次郎、外各理事三名	
第四回	大正十五年夏	瑞四、カントンテル	理事佐野常羽、顧問高島平三郎、審議委員福島四郎	
第五回	昭和四年夏	英國バーランヘッド	理事佐野常羽、顧問林博太郎	
第六回	昭和六年夏	壞國ウヰンバーランヘッド	理事長二荒芳徳、理事佐野常羽、審議委員中野忠八	
第七回	昭和八年夏	ハンガリーパタペスト郊外	理事小尾範治、外八名	
備考	埼玉県連盟副連盟長河合壽三郎氏は、昭和八年第七回大会に出席せり。			

命に逢着したのである。

当時吾々は、多年の努力全く水泡に期し、切歎扼腕再起を企劃したが、時運に抗し得ず、荏苒今日に至つた次第である。

## 2 戰後のボーカウト運動

県名	登録有効隊(A)	登録期間終了隊數(B)	合計(C)
北海道	三島通陽	一、三五	
岩手県	一、三五	一、三五	
宮城県	一、三五	一、三五	
秋田県	一、三五	一、三五	
山形県	一、三五	一、三五	
福島県	一、三五	一、三五	
青森県	一、三五	一、三五	
長野県	一、三五	一、三五	
岐阜県	一、三五	一、三五	
愛知県	一、三五	一、三五	
三重県	一、三五	一、三五	
滋賀県	一、三五	一、三五	
京都府	一、三五	一、三五	
大阪府	一、三五	一、三五	
兵庫県	一、三五	一、三五	
奈良県	一、三五	一、三五	
和歌県	一、三五	一、三五	
三重県	一、三五	一、三五	
福井県	一、三五	一、三五	
石川県	一、三五	一、三五	
富山県	一、三五	一、三五	
長崎県	一、三五	一、三五	
佐賀県	一、三五	一、三五	
熊本県	一、三五	一、三五	
大分県	一、三五	一、三五	
宮崎県	一、三五	一、三五	
鹿児島県	一、三五	一、三五	
沖縄県	一、三五	一、三五	
总计	一、三五	一、三五	

現存登録隊数は計一、八三一隊、隊員三六、三六七名、指導者四、二五三名である。因に内訳は左表の通り。

昭和二七年七月登録

終戦後昭和二十二年一月、三島通陽氏を再建ボーカウト中央準備委員長に推薦し、委員会を開設して着々実現を急ぎ、特に米綿司令部民間情報局ダーリング氏並にソーブ氏等の尽力により、再建ボーカウト日本連盟の結成を見たのである。

同年五月十七日には、第一回キャンプハイヤーを明治神宮外苑において開催し、皇太子殿下の台臨あり、又來朝中のフランガン神父を初め、東京横浜在住のアメリカ進駐軍家族スカウトの好意的参加もあり、有意義なる再生の第一歩を、しかも力強く踏出したのである。他而本計劃が全国同志に反映し、爾來一律に活動が開始せられたことは云う迄もない。

現存登録隊数は計一、八三一隊、隊員三六、三六七名、指導者四、二五三名である。因に内訳は左表の通り。

斯く一步一歩発展しつゝありし我が國の少年団運動は、大東亜戦争の勃発と共に、英米排撃の余沫に遭え昭和十六年三月解散を命ぜられ、同時に大日本翼賛青少年団に併合、かくて我が国の國際少年団運動は、これに全く中断の運

隊名	隊長名	隊委員長	現 リーダー <sup>スカウト</sup>	在員	隊所	在地
浦和二隊	山口英和	小山貫一	岸町八ノ一八五古川方	二	田村庄作	本太五七一田村方
三隊	河合	大関豊明	針ヶ谷三ノ七六鷹松方	二	藤田正	岸町四ノ五〇松本方
四隊	松本真弘	仲町五ノ三石井方	二九	二	大関豊明	別所二〇五阿佐見方
五隊	秋本英郎	高野木伸尾吉祥寺方	一九	二	二	本太五七一田村方
六隊	上屋洋治	仙沢隆光	三〇	二	三	桶川町一〇六三廣田方
七隊	岩井俊一	鷹松督雄	二七	二	二	與野町下落合七〇九本橋方
八隊	阿佐見定夫	長谷川武敏	三〇	二	三	鷺ヶ谷三ノ七六鷹松方
九隊	櫻井康雄	高橋	一八	二	二	蓮田町三、八一五閑根方
南埼玉一隊	高田一夫	本橋元治	三二	二	二	鷺ヶ谷三ノ七六鷹松方
熊谷一隊	鎌田醇夫	出口勝敏	四二	二	二	鷺ヶ谷三ノ七六鷹松方
休隊	原島敬郎	高橋蕃	二八	二	二	鷺ヶ谷三ノ七六鷹松方

備考	計	二隊	二隊	二隊	二隊	二隊
登録未了のスカウトは各隊に在隊す。実数は六百名以上に及ぶ。	二十三隊	森田圭亮	岩本英人	矢口正二	森健	塩原圭次郎
	高田一夫	植木長造	中村金彦	中村健文	安藤良平	鎌田寅三郎
	高山一夫	黒瀬治	吉崎寅之助	吉崎寅之助	橋本武治	橋本武治
	井上彦二郎	谷藤三	谷藤三	谷藤三	森鍵次郎	森鍵次郎
	六四	二	五	四	四	二
	五四一	一	五	四	三	二

熊谷市駅前栗原タクシー内  
本庄町ホーリースカウトクラブ内

二	二	二	二	二	二	二
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一	一	一	一	一	一	一
五	五	五	五	五	五	五
六	六	六	六	六	六	六
七	七	七	七	七	七	七
八	八	八	八	八	八	八
九	九	九	九	九	九	九
十	十	十	十	十	十	十
十一						
十二						
十三						
十四						
十五						
十六						
十七						
十八						
十九						
二十						
二十一						
二十二						
二十三						
二十四						
二十五						
二十六						
二十七						
二十八						
二十九						
三十						
三十一						
三十二						
三十三						
三十四						
三十五						
三十六						
三十七						
三十八						
三十九						
四十						
四十一						
四十二						
四十三						
四十四						
四十五						
四十六						
四十七						
四十八						
四十九						
五十						
五十一						
五十二						
五十三						
五十四						
五十五						
五十六						
五十七						
五十八						
五十九						
六十						
六十一						
六十二						
六十三						
六十四						
六十五						
六十六						
六十七						
六十八						
六十九						
七十						
七十一						
七十二						
七十三						
七十四						
七十五						
七十六						
七十七						
七十八						
七十九						
八十						
八十一						
八十二						
八十三						
八十四						
八十五						
八十六						
八十七						
八十八						
八十九						
九十						
九十一						
九十二						
九十三						
九十四						
九十五						
九十六						
九十七						
九十八						
九十九						
一百						



## 二、県内のボーカスカウト運動

### 1 戰前の少年團運動

本県におけるボーカスカウト運動は、同様少年團名称の下に各地に結成され、大日本少年團連盟にも加盟し、実績を挙げていたが、県都浦和市には遂に結成に至らなかつた。

因に当時の加盟團は次の通りである。

團名	團長	事務所	團名	團長	事務所
熊谷市少年團	石坂 義平	熊谷市役所内	北足立郡鴻巣少年團	黒沢慶次郎	鴻巣町二、九七一
北葛飾郡幸手少年團	野口 節	幸手町小学校内	大宮市少年團	角井 勝治	大宮市大門町
北埼玉郡不動岡少年團	新井 豊治	不動岡小学校内	川口市少年團	永瀬 四郎	川口市本町二二三六
大里郡深谷少年團	梶並 一夫	深谷町役場内	北足立郡桶川少年團	富永 佑三	桶川町幼稚園内
児玉郡本庄少年團	岩田 栄藏	本庄町役場内	秩父郡秩父少年團	園田 順助	秩父市水道部山
大里郡寄居少年團		寄居町中町八八九	大里郡棟沢少年團	新井 隆夫	棟沢小学校内

備考 熊谷、川口、大宮、本庄は各連合團を組織して活躍せり。

### 2 戰後のボーカスカウト運動

終戦後昭和二十一年七月十五日埼玉軍政部教育課長スカット氏より、埼玉県ボーカスカウト再建に関する提案があり、同課長より日連本部理事長三島通陽氏に交渉があつた。次いで八月一日同軍政部教育課において、三島通陽氏日連本部主事闇忠志、県社会教育課嘱託河合壽三郎氏等三氏により協議を進め、次の如き計画を樹てたのである。

- 1 先づ指導者を養成するために、九月廿五日より五日間、秩父郡長瀬において、講習会を開催すること。
  - 2 隊員としては浦和市在住の子弟にして、年齢十二歳より十八歳迄のもので、操行善良学業優秀にして、將來民主公民としての指導者たりうる素質を具有するもの。
  - 3 父兄の許諾あるものにして且つ校長の推薦によるもの。
- かく万般の準備を整え、希望者八十名を二隊に編成し、講習会により資格を得た指導員十八名を両分して各隊に配属、十月二十六日秋晴の午前十一時、軍政部官廳において、官民多数臨席の下に、いとも嚴肅裡に、結成式が挙げられたのである。
- かくして浦和隊が誕生して以來、漸次県内各地に再建の運動が展開され、遅早く結成したのは、大宮、本庄、熊谷、忍の四地域であつた。
- 因に現在の隊勢は次の通りである。

ボーカスカウト埼玉県聯盟一覽表（昭和二七・四・一現在）

隊名	隊長名	隊委員長	現 在員 リーダースカウト	隊所 在地
浦和一隊	石井英一	野口三郎	四〇	常盤町二ノ五八佐藤方

## 三、ボーイスカウトの訓練と其の実績

### 1 ボーイスカウト訓練の目的

少年が少年期の生活中、その大部分を占めるものは、校外生活である。校外生活こそ少年の将来を左右する一試練場であり、これが指導の良否が、幾多の実例となつて、毎日の新聞にも散見するのである。故に吾々は、この少年期(十二歳より十八歳まで)における少年の、身体的並に心理的方面の特徴を充分生かし、社会の激しい変化に聊かも足を踏外すことなく、正しく健全なる生長を助成し、最もよい国民に、延いては世界のよい国際人に育成していく、これがスカウト訓練の目的である。

故に少年が一度スカウトに入隊し、その少年期に堅く誓つた少年であるならば、必ずや三つの誓と十二の誓は、一生を通じて持続けられるであろう。

### 2 県内におけるボーイスカウトの実績

県内ボーイスカウト二十三隊の各隊は、常にスカウト道の大義に立脚して、目標を逸することなく、愈々健全に進んで行つてゐる。然も各隊は何れも吾等の隊長を中心にして、毎年プログラムを作成し、プログラムを生かして毎週堂々と訓練が続けられている。殊に隊長の全人格が隊員のすべてに反映している優秀隊が少くない。

因に昭和二十七年度指導案の一例として、川越第二隊並に川越第三隊の分を、次に例示して見よう。

昭和二十七年度ボーイスカウト川越第二隊行事予定表

二七、三、一〇

月別	行 事 予 定	合 同 予 定	行 事 実 施 標	予 備 行 事 予 定	社会 的 行 事	其 の 他
7	モールス発受信(笛)	モールス信号の基礎	植樹祭	育成会懇親会	29日天皇誕生	1. 国家祝祭
6	手旗交信訓練	ソング練習 新ゲーム	近郊ハイキング	自然観察	○緑の週間(募金)	2. 班は毎月には市街地掲場に国旗掲揚の事
5	結果法の應用	Sとの関係		俱樂部春季清掃	10.5日バードウイーグル	3. 日意法記念
4	個性の發見と技能指導	モールス発受信(電鍵)		隊委員会	11日赤十字募金	4. 日虫當予防
3.	移動野営の仕方と野营地	モールス発受信(電鍵)	母の会	小禽算箱かけ	10日子供の日	5. テーブルマーク
2.	夜光	山岳夏季訓練(三泊四日)	夏季野營適地の視察		11日バードウイーグル	6. 一日時の記念
1.	人命救助法	移動野營			10日母の日	7. 毎月第四
						○傳染病予防
						ア
						市街地の清掃
						野營具の点検
						隊委員会
						市街地の清掃
						野營具の点検

別月		行事予定		行事実施欄		社会的行事		其の他	
3	2	1	12	9	8	10	11	1	2
総合信号練習 指導者としての自覚 諸計画立案要領	ソング練習	班の冬季合宿訓練	モールス発受信 任務 營火長、点火手進行係の 会議と議事及議事録の作 製要領 技能訓練 ゲームの指導法	モールス発受信 任務 營火の準備と營火の意義 ソングの指導法	モールス電鍵発受信 野営諸資材の供給要領 營火の準備と營火の意義 一級考查、技能考查	モールス電鍵発受信 野営諸資材の供給要領 營火の準備と營火の意義 規律及班員指揮要領 記念行事の諸準備	モールス電鍵発受信 野営諸資材の供給要領 營火の準備と營火の意義 規律及班員指揮要領 記念行事の諸準備	モールス電鍵発受信 野営諸資材の供給要領 營火の準備と營火の意義 規律及班員指揮要領 記念行事の諸準備	モールス電鍵発受信 野営諸資材の供給要領 營火の準備と營火の意義 規律及班員指揮要領 記念行事の諸準備
又は近郊啓蒙未結成地 一泊野営	ヨンクリエーション	合同会議	進団旗掲揚の促進 日の丸行進	パシヨーナラ	近郊夜間ハイク	近郊ハイク又は一泊野営	近郊ハイク	1日、17日 玉ラーリー野崎	合同第三予定
年間行事予定の整理 家庭訪問	年間行事予定の作 成	選挙 班長、次長の 備品の補修	川越地区SG・SB・ 同会議 備品の整備	川越祭交通整理 母の会 訓練年少幹部特別 隊委員会	14日 3日文化の日 15日川越 年紀念30周年 ○共同募金	3日秋分の日 23日秋分の日	予備行事予定	備	行事実施欄
21日春分の日			15日成人の日	25日Xマス ○火災予防デ					

昭和二七年度ボーオイスカウト川越第三隊行事予定表

二七、五、一〇

別月	年少スカウト(小学生)	新入隊員の説明	新入隊員の説明	新入隊員の説明	新入隊員の説明	新入隊員の説明	新入隊員の説明
4	年少スカウト(小学生)	急救法、止血法、綿帯法 人工呼吸法 キムスケーム	手旗信号ソング、ゲーム	植樹祭	育成会総会 自然観察	3日憲法記念 ○緑の週間 (募金)	備考
5	スカウトサイン、儀礼法 一日一善、スカウト章 誓約、標語、スローガン スカウトの目的、ソング ゲーム	結索法(用途、用法) スカウトの歴史、用法 三大制度、服装、ソング	結索法(用途、用法) スカウトの歴史、用法 手旗、信号 追跡、スカウトベース	簡易測量法、方位の発見 信号法、地形図の読み方 手旗、信号 追跡、スカウトベース	近郊 ハイキング	母の会 夏季野営の適地の観察 ○傳染病予防	社会的行事 其の他
6	スカウトサイン、儀礼法 一日一善、スカウト章 誓約、標語、スローガン スカウトの目的、ソング ゲーム	結索法(用途、用法) スカウトの歴史、用法 手旗、信号 追跡、スカウトベース	結索法(用途、用法) スカウトの歴史、用法 木工製作、手旗信号 ソング、ゲーム	磁針の正確な使用法 小刀、斧、鎌、円规の使 木工製作、手旗信号 ソング、ゲーム	近郊班野営 (山岳夏季訓 三泊四日) 移動野営	小食裏箱かけ 隊委員会 市街地の清掃 野営具の点検	29日天皇誕生 10日バーベクュー 11日赤十字募金 10日母の日
7	スカウトサイン、儀礼法 一日一善、スカウト章 誓約、標語、スローガン スカウトの目的、ソング ゲーム	結索法(用途、用法) スカウトの歴史、用法 手旗、信号 追跡、スカウトベース	結索法(用途、用法) スカウトの歴史、用法 手旗、信号 追跡、スカウトベース	野外炊事、野営料理の種類 野営要領、野営具の製作 報告書作製、野営具の指導	近郊班野営 (山岳夏季訓 三泊四日) 移動野営	隊委員会 母の会 夏季野営の適地の観察 ○傳染病予防	3日憲法記念 4日虫歯予防 4日虫歯予防 10日時の記念 11日赤十字募金 10日母の日
8	ソング、ゲーム	水泳指導	水泳指導	水泳指導	近郊 ハイキング	母の会 夏季野営の適地の観察 ○傳染病予防	3日憲法記念 4日虫歯予防 4日虫歯予防 10日時の記念 11日赤十字募金 10日母の日
9	ソング、ゲーム	人情、身体、技能 奉仕心の養成 国旗の取扱い方法	人情、身体、技能 奉仕心の養成 国旗の取扱い方法	人情、身体、技能 奉仕心の養成 国旗の取扱い方法	近郊 ハイキング	母の会 夏季野営の適地の観察 ○傳染病予防	3日憲法記念 4日虫歯予防 4日虫歯予防 10日時の記念 11日赤十字募金 10日母の日
10	ソング、ゲーム	森林生活、野営、行脚 手技、信号、救急法の意 簡単な野営具の製作 設営準備、天幕の張り方	ソング、ゲーム	ソング、ゲーム	近郊 ハイキング	母の会 夏季野営の適地の観察 ○傳染病予防	3日憲法記念 4日虫歯予防 4日虫歯予防 10日時の記念 11日赤十字募金 10日母の日
11	ソング、ゲーム	視覚、聴覚、触覚、味覚 奥覚の重要性 木工、工作 班組織について	ソング、ゲーム	ソング、ゲーム	近郊 ハイキング	母の会 夏季野営の適地の観察 ○傳染病予防	3日憲法記念 4日虫歯予防 4日虫歯予防 10日時の記念 11日赤十字募金 10日母の日
年記念行事周							
活動委員会	播音会 27年度基運	母の会 川越祭交通整理	母の会 年少幹部特別	16、17日晴玉 ラーリー	16、17日晴玉 ラーリー	第3回 市街地の清掃 野営具の点検	3日憲法記念 4日虫歯予防 4日虫歯予防 10日時の記念 11日赤十字募金 10日母の日
金工品の製作	社会的行事 連絡、傳令要領 野営携行品の整理要領	モールス信号の基礎的注 モールス発信、受信 簡易測量 野営地の撤収要領	ハイキンガ報告書の要領 交通整理、指導法 星座の研究	近郊 ハイキング	近郊 ハイキング	母の会 夏季野営の適地の観察 ○傳染病予防	3日憲法記念 4日虫歯予防 4日虫歯予防 10日時の記念 11日赤十字募金 10日母の日
年記念行事周	播音会 27年度基運	母の会 川越祭交通整理	母の会 年少幹部特別	23日秋分の日	23日秋分の日	母の会 夏季野営の適地の観察 ○傳染病予防	3日憲法記念 4日虫歯予防 4日虫歯予防 10日時の記念 11日赤十字募金 10日母の日
年記念行事周	3日文化の日 の日	14、15日川越 祭市制30周年 記念	○共同募金	14、15日川越 祭市制30周年 記念	14、15日川越 祭市制30周年 記念	母の会 夏季野営の適地の観察 ○傳染病予防	3日憲法記念 4日虫歯予防 4日虫歯予防 10日時の記念 11日赤十字募金 10日母の日
年記念行事周	3日文化の日 の日	14、15日川越 祭市制30周年 記念	○共同募金	14、15日川越 祭市制30周年 記念	14、15日川越 祭市制30周年 記念	母の会 夏季野営の適地の観察 ○傳染病予防	3日憲法記念 4日虫歯予防 4日虫歯予防 10日時の記念 11日赤十字募金 10日母の日

別月	年少スカウト(小学生)	初二級スカウト	第三級スカウト	合同予定隊	予備行事予定	備考
12	推理、推測、常識、脳の働き、機敏性 身の廻り品の整理 結果法の実地應用	信仰心と自然との感謝 接客法と案内要領 火災予防について モールス、発、受、信	サヨーナラ パレード	川越地区B・S'G・S合 同会議	25日Xマス 1日元旦 15日成人の日	火災予防デ
1	班活動について 手旗信号の基礎指導	各種会議について 技能訓練 手旗信号	国旗掲揚促進の丸行進	新年新睦会		
2	手旗指導 ソング、ゲーム	ソング、ハイキング ソング、ゲーム	班長、次長の選挙			
3	手旗信号 傳令要領指導 ソング、ゲーム	デンチーフミミの任務 ソング、ゲーム	合同会議 レクリエーション	備品の補修		
	又は一泊野營	近郊地区啓蒙会 イク	年間記録の整理 行事予定の作成	21日春分の日		
	家庭委員会					

### い 奉 仕 作 業

次に奉仕作業については、スカウト訓練の一環として、各隊個々及び共同の線に沿うて、それらを実施しつゝあるが、県内公共奉仕として各隊一齊に活動せるものは、凡そ次の句間に週間行事である。即ち

- 1 県内綠化運動——募金並に植樹に全面協力
- 2 交通安全旬間——交通整理に警察に協力
- 3 火災予防週間——夜警協力、消防隊に協力
- 4 道路清掃美化週間——道路の清掃美化協力
- 5 公明選舉運動——棄権防止、不正投票防止協力
- 6 共同募金運動——赤い羽根募金箱頭に進出
- 7 公衆衛生週間——各社会衛生の催物に協力

等である。

次に夏期総合訓練としては、毎年夏休みを利用して、各隊思い切った適地に天幕を張り、共同生活を通して、協力心、融和心、向上心が力強く養成される。協力融和の精神こそ、社会に出た後に、最も必要な生活道徳の基盤であることを会得させる。又正しい規律ある生活も無論から派生することは云うまでもない。

### ろ 本年度夏期野営訓練

本年度夏期野営訓練を実施したる諸隊は次の通りである。



## 四、ボーカウト運動の経費

何をするにも、凡そ経費の伴わないものは一つもない。スカウト運動にも無論経費が必要であり、之が捻出には、各隊とも少からぬ苦労を続いている次第である。

設立当初、スカウトの制服や、隊の野営の備品には、相当の経費を必要とするが、その捻出の方法は、出来るだけ隊育成会の協力を頂くことになつて居り、爾後の運営の諸経費も、隊自身の勤労奉仕や、育成会の援助を待つて活動することにしている。

又當面の事務費、連絡費等の経費は、各隊とも隊費を徵集して貯つてゐるが、それは一人二〇円位から一〇〇円位迄の範囲で、毎月納入をしてゐる。職員一般から「ボーカウトは金持の道樂仕事で、金のないものはボーカウトになれない」と批難されたのは、制服等の費用を云々したものであらう。

次に県連盟の諸経費であるが、県連での助成会が未だ結成して居らないため、今の所定額収入の面は一つもないわけである。たゞ各隊の登録料であるが、毎年登録改をする際、スカウト一名年額六〇円、指導者同一二〇円（本年度より隊委員も同様負担となる）を納入する際、これを切半して一部を日連本部に、一部を県連の所得としている。強いて定額と云え巴これだけで、後は特志家の寄附を待つてゐる次第である。

従つて県連盟の運営は非常に困難で、会合があつても旅費はすべて自弁であり、又專従事務担当者には、何等の手当をあてがう術もなく、すべて奉仕に終つてゐる。

因に県連盟の二十六年度末経費の状況は、左表の通りである。

### 昭和二十六年度末経理状況

<b>一、基本金之部</b>	
本部 基本金現在高	一四、二五〇円
需品部仕入金貸付高	一五、〇〇〇円
差引預金高	九、二五〇円
<b>二、收入之部</b>	
二十六年度登録料	一七、六四〇円
" 寄附金	一九、〇〇〇円
<b>三、支出之部</b>	
二十六年度一般事務費	一五、五九〇円
県ラーリー補助費	六、五〇〇円
世界大会埼玉県連負担	三、三四〇円
指導者養成補助費	七、九六〇円
<b>計</b>	三三、四九〇円
<b>差引合計 残金</b>	三、一五〇円

## 五、ボーカウト埼玉県連盟の結成

当連盟は、日連本部規定に基づき、加盟店十隊以上に達したるを以て、昭和廿四年九一日理事会の決議により申請して結成、初代理事長に河合壽三郎氏を推薦して出発したが、同廿六年八月任期完了したるを以て、同年九月新に理事の改選を行い、地区理事一名、学識経験者干名を推挙したのである。

同年十月二十二日最初の理事会を浦和市本部に招集して、新に連盟長推戴の議が起り、満場一致を以て、大宮市理事福水健司氏を指名し、同氏の承諾があり、就任せられたのである。

猶この日連盟長就任により、從來の規約に対し、一部変更することを協議し、県連本部役員、県連規約、並に県連事務局規定等を一括、左記の通り發表を見たのである。

### 1 ボーカウト埼玉県連盟規約

第一條 本連盟は日本ボーカウト埼玉県連盟（以下單に埼玉県連盟と略称する）と称する。

第二條 本連盟は埼玉県内に於ける財團法人ボーカウト日本連盟（以下單に日本連盟と略称する）に加盟登録したボーカウト隊（以下單に加盟店と略称する）の總てを統轄してボーカウト訓育に依り青少年の良識を養成しその資質を昂揚し且つ國際友愛を増進することを目的とする。

第三條 本連盟は前條の目的を達成する爲日本連盟寄付行為附屬規則其の一都道府県連盟組織規定（以下單に県組織規定と略称する）第四條の事務を行う。

第四條 本連盟の本部を埼玉県浦和市別所一、六五四番地に置く。

第五條 本連盟は埼玉県連盟本部及県内加盟店を以て組織する。

第六條 本連盟県連盟組織規定第二、三、五條により次の如き役員を置きその定員及任期を定める。

聯盟長 一名 聯盟長は県内におけるボーカウト運動を代表し県連盟行事を統轄する。  
但し任期を二年とし二期以上継続重任は出來ない。

副聯盟長 二名 聯盟長を補佐し聯盟長事故ある時は其の職務を代行す但し任期を二年とし重任は差支えない。

理事長 一名 県連盟の維持經營に關し理事会代表者としての責任を有す。理事長は理事の互選とす。

但し任期を二年とし二期以上継続重任は出來ない。

理事 若干名 理事は本連盟一切の施策その他重要事項を協議決定する。  
監事 二名 監事は会計の指導監査に當る。

但し任期を二年とし理事の兼務とす。

第七條 本連盟役員の選出及び任務任期に關してはすべて理事会の決議による。猶必要に応じ顧問その他の名譽役員をおくことが出来る。

第八條 県連盟組織規定第六條に依り本連盟の事務執行機關として埼玉県連盟事務局を置く。  
埼玉県連盟事務局及その職員に関する規定は別に定める。

第九條 會議は総会及理事会とする。

第十條 総会は本連盟の役員及県内加盟店の各代表者を以て組織する。

通常総会は毎年一回臨時総会は必要に応じ開催する。

第十一條 理事会は理事長之を招集する。

第十二條 本事務局に左記の通り職員をおき其の職務、任期及び員数を定む。

第十三條 本規定に定めなきものは總て日本聯盟にて定められた諸規定に従い行うものとする。

## 2 ボーリスカウト埼玉県聯盟事務局規定

第一條 本事務局は理事会の決定に基いて埼玉県聯盟の事務を執行する。

第二條 本事務局に左記の通り職員をおき其の職務、任期及び員数を定む。

事務局長 一名 事務局関係の事務一切を掌る。

指導主任 若干名 県内B.S教育の実地指導に當る。

事務主任 若干名 事務局及び需品部関係の事務を掌る。  
但し任務は何れも二年とし又重任は差支えない。

第三條 事務局の人事は聯盟長の責任においてなす。

- 3 ボーリスカウト埼玉県連盟役員
- |              |           |           |
|--------------|-----------|-----------|
| 同 同 同 同      | 同 同 同 同   | 同 同 同 同   |
| 同 顧 問 同 同    | 同 顧 問 同 同 | 同 顧 問 同 同 |
| 埼玉県教育長       | 埼玉県知事     | 埼玉県連盟役員   |
| 参議院議員        | 県会議長      | 大関        |
| 浦和市長         | 前県会議長     | 本根沢       |
| 浦和市教育長       | 松倉憲雄      | 治治一       |
| 埼玉県財政課長      |           |           |
| 大里郡深谷町       |           |           |
| 川越市長         |           |           |
| 片倉製絲重役       |           |           |
| 県会議員         |           |           |
| 県嘱託          |           |           |
| 埼玉市社会教育課長    |           |           |
| 埼玉県教育局文化厚生部長 |           |           |
| 南埼玉町県社教委員    |           |           |
| 北足立与野町与野公民館長 |           |           |
| 熊谷市          |           |           |

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同  
同 相 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同  
副連盟長 談役

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同  
埼玉県教育長  
参議院議員  
浦和市長  
浦和市教育長  
埼玉県財政課長  
大里郡深谷町  
川越市長  
片倉製絲重役  
県会議員  
県嘱託  
埼玉市社会教育課長  
埼玉県教育局文化厚生部長  
南埼玉町県社教委員  
北足立与野町与野公民館長

合原 久 村谷  
原沼 原島 水藤 口原山 林谷  
田 島 寿主 保 彌清  
專清 千 健泰 平昌清 英健 太四  
三次 義 治治一  
桂 美良 寺 熙郎 郎司 吉八一 連典 三治 雄郎 郎

事

本庄町  
川越市本町四  
川越市教育課長  
入間郡坂戸町  
浦和市社会教育委員  
日連本部需品部  
浦和市本太前地  
森吉崎寅之  
江原四  
黒瀬瀧  
宇野  
根松下  
本惣三  
鍵助治郎  
次郎  
之子

## 六、沿革

昭和三、七、五 埼玉軍政部教育課長スカウト氏より、県内ボーイスカウト再建の議あり、県社会教育課に内交渉あり。

八、一 埼玉軍政部教育課長スカウト氏より招請あり、ボーイスカウト日連本部理事長三島通陽氏同主事閑志志氏、埼玉県嘱託河合壽三郎氏等と協議の結果、再建に関する具体策を樹づ。

八、一 河合壽三郎日連本部より地方理事に任命せらる。  
九、五 秋父郡長瀬において指導者講習会を開催し、GHQ青少年顧問タオペー氏、三島通陽氏、  
元内田二郎氏、根本惣三郎氏、室岡近衛氏、河合壽三郎氏等講師とし、浦和市推薦による講習生十八名の訓練を完了す。

一〇、六 秋時の埼玉軍政部教育課長スカウト二箇隊八十名の結成式を挙行す。

当日官民多数参加し、中にもライアン指導官は感激溢る、祝辞を述べらる。

一一、六 日連本部理事長三島通陽氏本庄隊結成のため来町せらる。

一二、六 本庄、大宮、熊谷、川越各地区より登録の申請あり。

一二、七 東京赤坂一木町日勝文庫において全国初の地方理事会開催、本県より河合理事出席す

一二、八 大宮市に於て指導者講習会を開催す。

一二、九 相州三浦半島鴨江海岸において、県内初の合同野営を五日間実施す。浦和、熊谷、本庄、忍の四地区より七十名参加す。

一二、一〇 加盟隊数計七隊となる。

一二、一一 県内川越、大宮、熊谷各地において指導者講習会を開催、日連本部理事長三島通陽氏指導に来県さる。

一二、一二 犬宮公園において県内第一回のラーリーを実施す。

一二、一三 县下加盟登録隊は計九隊となる。

一二、一四 大宮文化会館において、廿四年度行事打合。

一二、一五 東京都第三回キャンプハイヤーに参加す。

一二、一六 春日部において指導者連絡協議会を開催す。

一二、一七 大宮文化会館において日連本部の特修実修所開設、河合理事所員として奉仕す。

一二、一八 千葉県保田海岸において海洋訓練実施す。

昭和四、八、七

ボーリスカウト埼玉県連盟結成、同時に県連の規約、役員等の任命発表あり、初代理事長に河合壽三郎氏就任す。

県下加盟登録隊は、浦和一、二、三隊、本庄一隊、熊谷一、二隊、大宮一、二隊、川越一、二隊、坂戸一隊、蓮田一隊、計十二隊となる。猶指導者三三名、スカウト三五三名に及ぶ。

九、三、一、四 東京京橋千代田生命会館において通常総会開催、県連より河合、塙原兩氏外各隊長出席す。

九、四、一、五 第一回全日本ボーリスカウト大会、宮城前にて、県下加盟隊全部参加す。

九、元、一、〇 二 大宮市指導者講習会を開催す。

九、元、一、〇 飯能町指導者講習会を開催す。

九、二、一、〇 県内加盟隊十二隊 指導者三三名、スカウト三一九名に達す。

九、二、一、〇 三 冬季スキート訓練を妙高山において開催す。

九、二、二、三 理事隊長会議。

四、一、〇 川越二隊 G H Q 資源局シェリー氏指導の梅園村植林に参加す。

五、二、七、一、六 東京築地本願寺における関東地区大会に参加す。

五、二、元 四月廿八日附ボーリスカウト国際會議員として日本連盟復帰承認せらる。

六、一 參院選挙棄権防止運動に各隊参加す。

七、一、六、一、〇 千葉県保田海岸において指導者講習会を開催す。

県内スカウト現況、浦和一、二、三、四隊、大宮一、二、三隊、本庄一、二隊、川越一、二隊、坂戸一隊、蓮田一隊、桶川一隊、計十六隊。

七、二、三、一、三 浦和市指導者講習会開催す。本部より三島理事長來浦。

八、八、一、元 第二回全日本ボーリスカウト大会、新宿御苑において。

八、八、一、元 県下加盟十六隊参加す。浦和三隊、田村、阿佐見両君はこの日人命救助章を授与せらる。

九、二 隊長会議。

九、二、八 県下火災予防週間に各隊協力。

一〇、三、一、三 熊谷市富士見中学校々庭において、県内第二回ラーリーを実施す。(大宮隊以外は全部参加す)

一一、二 ボーリスカウト、ガールスカウト研究会を開催す。

一二、六 連合軍韓国軍慰問金募集会隊協力す。

一三、七、三 県聯開幕会開催す。

一四、六 ボーリスカウト臨時総会。この日熊谷、本庄両隊は社会公共奉仕章授与せらる。

一五、元、一、四、二 坂戸町指導者講習会を開催す。

一六、一、二、三 県内スカウトの現況

浦和一二三、四、五、六、七、八隊、大宮一、二、三隊、熊谷一、二隊、兒玉(本庄)一、二隊、川越一、二隊、入間(坂戸)一隊、北足立、桶川一、与野一、計二隊、南埼(蓮田)一隊、計二十一隊に發展す。

昭和二年、八、四一八 第三回全日本ボーイスカウト大会、山形県藏王山において。埼玉県連よりスカウト二七名、リーダー三二名、計二五九名参加す。

八、二七 隊長会議。

九、一五六 第三回ラリーを、川越市喜多院境内において実施し、各隊参加す。

九、一 理事改選、新に十三名推薦さる。

一〇、三 県連理事会議を開催し、連盟長に福永健司、副連盟長に塙原圭次郎、河合壽三郎、理事長に小島熙の四氏推举せらる。

一一、三一四 浦和市ラリー開催、県内有志隊参加す。

一二、二、三、四 理事隊長会議。

五周年記念行事を協議す。

一三、二 同

一四、一 県内スカウトの現況、前頁記載の通り。

一六、二一三 第三回全国総会、於箱根強羅、県連より副連盟長河合壽三郎氏、理事長小島熙氏、県内

育成会代表吉崎寅之助、三氏出席す。

一九、三一四 県連五周年記念大会、於調宮公園全隊参加す。

八、二七 理事隊長会議。

五周年記念大会実施について協議す。

一九

二〇

二一

二二

二三

二四

二五

二六

二七

二八

二九

二一〇

二一一

二一二

二一三

二一四

二一五

ボーイ・スカウトは、国際的な原則を維持し、国内でのこの運動を発展させるため、東京に日本連盟本部を、又各府県毎に府県連盟本部を持つています。スカウト運動についての御質問をお寄せ下さい。

浦和市大字別所1,654 河合壽三郎方

ボーイスカウト埼玉県連盟本部

ボーイスカウト隊を作るための手引やスカウトのハンドブック指導者の指針等は埼玉県連盟需品部に用意してあります。カタログを御請求下さい。

浦和市岸町二丁目 加藤四郎方

ボーイスカウト埼玉県連盟需品部

昭和27年版

健歩こゝに五年

昭和27年9月11日印刷 (非賣品)

昭和27年9月12日発行

編集 河合壽三郎

浦和市大字別所1,654番地

発行 (株)埼玉県連盟本部

川越市大字川越1,654番地

甲種 特定会社 青山印刷所